



# えんじゅ

春日市立春日小学校

校長室便り No.7

令和5年7月7日

文責：校長 福島

## 五感で春日小を感じる



少し前の話になりますが、5年生が国語の学習で校長室にインタビューにやってきました。「校長先生のお仕事ってなにをされているのですか。」うーん、直球勝負の鋭い質問です。なんて答えようかと一瞬ちゅうちょしましたが、こんな答えを返しました。「どうしたら春日小のみんながもっとわくわくするか考えているのですよ。」「なるほど！いつもありがとうございます。」素直に納得して熱心にメモを取っていました。

校長には、ふかんの的に学校を見る目が求められます。子供たちや職員の状態等、学校はうまくいっているのかを感じる感性が必要です。

表現が難しいのですが、私はいつも体全体で春日小を感じたいと思っています。毎朝学校の外を1周して外から学校を眺め、校門で子供たちとエアタッチとあいさつをし、毎日全教室を回っていると何となく学校の状態はわかるものです。子供の表情や声・手と手の距離、落ちているごみの種類や量、朝から運動場に出てくる子供の人数や言葉等、色々なことで感じています。

今はわくわくしている子供が多い、いい状態だと感じます。そんなときって、不思議と「校長先生ー！」と声をかけてくれる子供が増えます。朝の会が始まる直前に運動場を歩いていると、学年を問わず教室から声をかけてくれます。写真では見えないと思いますが、小さな窓の中から笑顔で手を振っています。運動場まで声はしっかり届きます。今日もたくさんの声が届きました。

すべての子供をわくわくさせられる学校にしたい、そう思っていますが、学校に気持ち向きにくかったり、集団に適應するのが難しかったりする子供もいます。ふかんの的に見る目とともに、個をみつめ、適切な支援ができていないか判断する感性も大切です。

私は春日小学校が大好きです。5年生のインタビューの答えに重みを感じ、運動場まで声を届けてくれる子供に応え、声にならない子供の思いをキャッチしながらわくわくする学校をつくっていきます。